

1. 評価結果概要表

平成19年 11月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2072400779		
法人名	特定非営利活動法人まんでん		
事業所名	グループホームまんでん		
所在地	長野県上伊那郡飯島町飯島2880番地1130 (電話) 0265-86-8680		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年10月13日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(19年 9月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人	非常勤3人 常勤換算8.5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,900 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		970 円

(4) 利用者の概要 (9月 1日 現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	6名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木下医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれ四季の移り変わりや季節を感じられる環境にあり、日々の散歩や畑作り、園芸など生活を楽しむのに最適となっている。地域密着型サービスになったことをきっかけに、“地域の方々とともに歩みたい”という理念の実現をめざして、さらに積極的に地域との関係を深めている。また、利用者の生活が「その人らしく、より豊かで、暖かくありますように」と願い、できることや得意なことをいかして役割を作ってやってもらっている。いつも笑い声のある暮らしをと、好きな歌をうたったり、楽しい話を提供するなど職員も一緒に安心して過ごせるように心掛けている。職員が利用者を人生の先輩として尊敬している様子も会話の様子等で伺えた。開設4年となり、さらに地域密着型サービスとしての役割が期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームの役割や理念を地域に理解されるための働きかけについては、運営推進会議の開催や、ホーム便りに理念を掲載するなど改善がみられる。ケアプランに添った日々の記録内容については、ケアプランの実施チェックを日々行うように改善されており、チェックすることにより意識化できている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員が自己評価に取り組み、話し合う機会をもうけている。全員で取り組むことにより、見落としがちな点に気づき、また原点にかえることができたとのこと。引き続き、課題を把握して、介護の質の向上や改善に取り組まれることを期待したい。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議においては、ホームの活動報告を行う中で、ホームの役割など具体的に話し理解してもらっている。また、実際に見学してもらっている。地区からの要望や参加している役員の感想もだされておき、ホーム側からは災害時の協力依頼をするなど情報交換、情報収集の場として活かしている。内容は地区内に回覧されており、役員だけでなく、地区住民のホームの理解に役立っている。また、ホームの存在が認められ、施設長が飯島町社協の理事に選ばれている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p>
重点項目③	<p>毎月、請求書を送付するときに、お便りや写真など同封して様子を知らせている。また、行事の参加時、来訪時や電話で意見や希望を聞くようにしている。意見に対しては、ミーティング等で全職員に伝え、改善している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し区費は払っているが、地区内の作業等は免除されている。行事は地区内にはないが、保育園や小学校にこちらから出かけて交流の機会を作っている。地区の方がボランティアで畑を耕す手伝いをしてくれたり、野菜等持ってきてくれる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、理念に“地域の方々と共に歩みたい”と掲げて地域に開かれたホームをめざしている。法人として町に宅老所も開設しており、地域の中で暮らし続けられるよう取り組んでいる。地域密着型サービスとしてどうなのか、理念の見直しをはかっていきたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃から、施設長が自分達のやっていることを振り返る際、意識的に理念に照らし合わせてどうなのか話すようにしている。職員の話にも、理念に掲げられている具体的内容について語られ、日々取り組んでいる様子がうかがわれた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費は払っているが、掃除等は免除されている。また、地区独自の運動会等の行事はない。集落から離れているので、こちらから小学校の運動会を見に行ったり、保育園を訪問するなどして交流している。地元の人が野菜を届けてくれたりもしてくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるのは3回目である。職員みんなで自己評価に取り組み、やることによって意識して見直すことができている。手すりをつける、外にベンチを置く、記録方法を見直すなど、改善に取り組んでいる。		

グループホームまんでん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催するようになり、会議内容やホーム便りを組合回覧してくれ、地域の人もホームについてより理解してくれるようになった。また、災害時の協力についても話しあわれている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加だけではなく、用事があると出向いてくれて、中を見学したりしてくれている。ホームの行事には声をかけて参加してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事のある時には、家族にも参加を呼びかけている。毎月、請求書送付の際、お便りや写真、記録のコピーなどを同封し様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、なかなか来られない家族には電話連絡の時に、話を聞くようにしている。必要なことについては、会議等で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに何人か、退職して職員が入れ替わっているが、一度に変わってはいないので、混乱が起きないように配慮できている。		

グループホームまんでん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各団体の年間研修予定や情報の入った研修についてみんなに提示して、職員の希望や都合に合わせて順番に受講できるようにすすめている。研修後は、報告を行ってもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加盟している。また、上伊那のグループホームで、定期的に見学会、勉強会などの交流を行い、質の向上を相互にめざしている。法人内のホームとの交流も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	来所してもらったり、お試し利用等を行って様子をみて、できるだけ納得して入居できるようにしている。職員が自宅訪問も行って、今までの状況を見せてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であることを忘れず、歌を教えてもらったり、昔の事を聞いたりしながら過ごすようにしている。訪問時にも、若い職員が昔なつかしい歌を利用者に教わりながら一緒に歌っていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や家族等が訪問した時に情報をもらって参考にしている。日常的にも、生活するなかで把握するようにしている。	○	検討中とのことだが、生活のなかで把握した本人の思いや希望について記録に残し、みんなが情報を共有していけることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスは、月1回開催し、一人ひとりの状況を話し合っている。身体面、生活面の具体的な課題を挙げ介護計画を作成している。家族には、介護計画のコピーを送り、電話や来所時に意見や要望を聞いている。サインは、来所時にもらうようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月々の話し合いや日々行っているケアプラン実施表を元に、定期的には3ヶ月に1回見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	町には同法人の宅老所がある。将来的には、ショートステイも検討中だが、職員配置や建物の関係もあり実施は先になる。通院については、家族の都合が悪い時は対応している。		

グループホームまんでん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科や精神科等家族同行の受診を行っている。情報交換については、看護師を通して紙面で行っている。協力医院の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、家族と話し合いを持ち、家族の希望を聞きながらすすめている。話し合ったことについては、職員で共有している。	○	話し合いは持たれているが、今後、ホームとしての方針を明確にして文書等で示し、それに基づいてすすめていくことを期待したい。また、話し合った状況については、記録に残し、みんなで共有されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄を誘う場面や食事の準備等やってもらう時など、誇りやプライバシーを損ねることのない様に、その人にあった言葉かけを行っていた。	○	今後個人情報保護法の学習を開く等して、さらに理解を深めていかれることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やお茶等、その人のペースで過ごしてもらっている。起床についても、自由だが、一定の時間には声をかけている。		

グループホームまんでん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の資格を持っている職員が大まかに1週間毎献立をたてているが、その際みんなの希望を聞いたり季節のものを取り入れている。野菜の皮むき、切ること、盛り付け、おしぼりの準備、配膳、片付けなど、職員と一緒にいる。また、職員も同じテーブルについて、おしゃべりを楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日の設定はしていないが、希望を聞きながら、週に2回は入ってもらうように声をかけている。毎日入る方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、草取り、掃除、調理、おしぼりや湯のみを配るなど役割を持ってもらう、得意なことをお願いするなど少しでもできることをやってもらっている。みんな歌が好きなので、一緒に歌って楽しんでいる。また、年2~3回保育園を訪問したり、お花見、ドライブなど楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然に囲まれており、日常的に戸外にでては季節を感じてもらっている。ホームの食材や必需品の購入には、希望を聞いて一緒に買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	チャイムを玄関にとりつけてあり、玄関を出られる場合はさりげなく同行して見守るようにしている。		

グループホームまんでん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署に依頼をして救急法の勉強をしたり、実際に避難訓練を行っている。地域の方にも運営推進委員会の中で災害時の協力をお願いしてある。	○	さらに、マニュアルの整備、緊急事態に備えて水や食料品等必要物品を準備しておくなどして安全安心な取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、排泄のチェック、月1回の体重測定を行い、日誌やケースファイルに記録して一人ひとりの状況把握に努め、状態にあわせて支援している。食事内容については、栄養士がバランスの取れた献立に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外にはベンチ、建物内にはところどころにイスやソファを置くなど、好きに過ごせるようになっている。壁にもみじを飾る、きんもくせいを生けるなど季節を感じられるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、それぞれに、写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ちこむなど、安心して過ごせるようになっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。